

2月11日から3月12日の約4週間、オーストラリアのニューサウスウェールズ州のニューカッスル大学語学研修に参加してきました。語学研修の形としては、English Language Bridging Programというニューカッスル大学が行う10週間プログラムのうち、2週目から5週目までに参加するものでした。私がいたUpper Intermediate 101クラスは中国からの留学生2人、日本人18人で、多国籍クラスではありませんでしたが、ほかのクラスも日本人がほとんどのような感じでした。この4週間の活動報告を書くにあたって、「大学生活」「ホームステイ」の2点に分けて進めていきたいと思っています。

1・大学生活

ELBPは午前午後一コマずつの授業形態で、月火と水木金で別の先生が担当していました。大きく日本と違うと思った点は、紙を使わずすべての授業コンテンツがOne Noteに挙げられていることです。普通の授業に参加したわけではないので、実際の現地学生がどのように生活しているのかは判断しかねますが、レジュメなどを配られたことは一度もなく、グループ活動などもコラボレーションスペースという場所でそれぞれが答えを書くというシステムでした。初めての経験で、最初はログインすらできずどのようにメモを取ればいいのか分からないことが沢山ありましたが、慣れてしまえばパソコン一つで勉強が完結するのがとても便利に思えてきました。また、どのように授業が進んだかも自宅に帰ってすぐ振り返ることが出来たので、復習というのを普段より十分な時間行うことが出来ました。このパソコン一本化の難点としては、手で書くよりも単語を覚えにくさを感じた点です。パソコンの機能によりスペルミスを自動で直してもらえたり、目と口でしか単語を認識しなかったりするのでその難しさを感じました。

授業は4技能を分けて勉強し、特にライティングが重視されていました。例えば、どのように文章をつないでいくのか、構成の基本などについて事細かく学びました。実際に何個かエッセイを書く機会もあり、フィードバックやアドバイスを通して書き始めが以前よりスムーズになりました。ディスカッションなどのペア活動もあり、先生が会話を聞いて、別の表現方法やアクセントのコツなどを教えてもらう機会がたくさんあり、発言の正確性の向上が出来たと実感しています。ホームステイ先や買い物など習ったことを復習がてら使う場所があったので、短い滞在でも習得できたことが非常に多かったです。この点で留学することの利点を感じました。ただ、どうしても日本人ばかりのクラスなので日本語を使う時もあり、その点はもっと努力できたのではないかと思います。

元々英語を使うのにためらっていたわけではありませんが、相手が日本語を使う中英語で返すというのに少し恥じらっていたのがそのような状況になってしまった理由です。後悔をしている部分なので、次回はさらに積極的に学習していきたいです。

また、私たちが過ごしたニューカッスル大学のカラハンキャンパスはとにかく広大でした。その広さから、次の教室に行くのに15分歩いたり、橋を渡ったり大変な日もありました。広さを生かして、コーヒースタンド、ショップ、レストラン、カフェ、サブウェイといった施設がたくさんあり、図書館は勉強スペースが非常に広く、会議スペースではグループ学習が行われていました。一番驚いたのはベンチの多さです。北九州市立大学ではA101など空き教室が解放されていますが、ニューカッスル大学はそうではありませんでした。その分、外やショップの近くにあるベンチが非常に多く、ランチタイムは多くの方が外のベンチで過ごしていました。このように大学生活は、授業形態もキャンパスの環境も大きく違いましたが、先生方のサポートなどで毎日楽しく過ごすことが出来ました。

2. ホームステイ

学校からバスで15分のところにあるニューランブトンという町で、ミシェルさんのおうちにホームステイしました。ホームステイを通して異文化を感じた点がいくつかあります。まず、家族や友人との過ごし方です。例えば、日本ではあまり家族団らんで環境問題や政治の問題について話すことはありませんが、ホームステイ中はオーストラリアの抱える課題やそれに関するドキュメンタリーを見る機会が非常に多かったです。ミシェルさんのお友達と食事をしたときに、環境問題にお二人が話していて日本のことも問われるということがありました。もしかしたら自分のホームステイだけかもしれませんが、自分の国に誇りを持ち意思表示をしっかりとる人に多く出会ったので、日頃からそのために準備しているのかなと感じました。内容が難しく、最初はYesくらいしか会話に参加できていなかったけれど、少しずつ知っていることを話すなどして、最後はこのような話題に自分から触れることが出来るようになりとても嬉しかったです。

次に、食生活の面でも異文化を感じました。ミシェルさんは料理がとても上手だったので、いろいろな国の料理を作っていただきましたが、すべてにおいて日本より味付けが濃くなっていました。朝ごはんはパンかシリアル、昼ご飯は基本的に毎日同じサンドウィッチと果物、みたいな感じで、朝昼は軽め、夜は重ための食事でした。また、外食をした際にはすべての値段が高かったのが印象的でした。例えば、ハンバーガーが日本円で約2200円、フィッシュアンドチップスも同じく2,000円くらいしました。ミシェルさんもモノの値段が高すぎるので料理が必然と好きになったと話していました。土日はミシェルさんのご厚意で外食が多かったですが、一度ピザが4000円くらいに値上がりしていてお店を変えたことがありました。日本では外食といっても1人1000円もあればおいしいものが食べられるので非常に驚きました。

他にも、生活リズムも大きく違いました。早寝早起きが当たり前で、お店の営業時間などを含めてすべて2時間くらい前倒しでした。その分仕事や学校も早く始まって早く終わる形がとられていました。また時間を有効につかい、平日でも家族でビーチに行ったりプールに行ったり楽しんでいる現地の方が多く、非常にのびのびとした生活を送っていました。

実はオーストラリアは平日の外出も多くあることから、休日はゆっくり過ごす人が多いとミシェルさんから聞ききました。私たちは4週間だけだったので、4つのビーチに行ったり、ラクダに乗ったり、動物園に行ったり、ワインを買いに遠出したり、シドニー旅行に行ったり土日は毎日外に出ていました。特に、泳ぐのが好きな私にとって、波の感じも雰囲気も全く違うビーチに行けたことは貴重な経験でした。いろいろな場所を訪れることで、オーストラリアの土地の広大さと自然の豊かさを見る事が出来ました。ミシェルさんは車内や訪れた先で、その土地の背景や文化を教えてくださいましたので、旅行とはまた違うホームステイの良さを感じました。1か月という短い期間でしたが、ミシェルさんのおうちで過ごしてつらいことはなく忘れられない経験をする事が出来ました。別れ際、駅の前で泣きながら、「必ず戻ってきます」と約束したので、また彼女に会いに行きたいと思います。本当に素敵な1か月になりました。

今回の語学研修を通して、異文化はその地に訪れないと経験できないものだということを学びました。今はインターネットが発達していますし調べれば私が経験したことの画像や情報も出てくるかもしれません。

それでも、その異文化で生活することによって出てくる感情や考え方、現地の人の考え方は日本では経験できません。たった1か月でも、自分が知りたい文化があればその場所に思い切っていってみることが大切だと感じました、また、自分は今まで英語を実践的に使う経験を自分から掴もうとすることがありませんでした。この1か月の語学研修に申し込むのもかなり悩みました。ですが、いざ異国の地に訪れてみて、そんなにためらう必要なんてないんだと自分の考え方が変わりました。間違いも経験でそれを笑う人もいなかったし、むしろ間違いをたくさんすることでフィードバックがたくさん帰ってきて自分の知識になりました。自分の英語に自信が持てるようになりました。このような考え方の変化や自信をここで終わらせることなく、三年生からのゼミや授業に生かし、自分の興味あることを恥ずかしがらずにどんどん挑戦していきたいと思います。そして約束した通り、またオーストラリアに訪れることが出来るように勉強を続けていきます。

